

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ミャンマー)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2018年11月4日~11月17日の期間で、ミャンマー・ヤンゴンでのカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。ヤンゴン工科大学との連携により、J&M Steel Solutions (JFE エンジニアリングとミャンマー建設省の合弁企業。主に橋、歩道橋、浮架橋などの社会インフラ建設)が受け入れ企業でした。

参加学生は阪大から工学研究科2名、基礎工学研究科1名、外国語学部ビルマ語専攻1名、ヤンゴン工科大学からは冶金専攻2名、機会専攻2名の合計8名でした。最初の2日間、ヤンゴン工科大学で実施された事前研修では両国紹介、日系企業について(基本理念、製造業の強み、5S、CSR他)コミュニケーション、接合科学の基礎などの講義と実習を行い企業実習への準備と学生のアイスブレイキングの時間としました。J&M社での企業実習では、事業紹介の他、部門の異なる社員へのインタビュー、溶接、孔明、ガスカッティング、マーキング、レベル確認などの実習、そして施工済みの各現場

訪問など、多面的なプログラムに取り組みしました。

文化体験ではローカルバスに乗り寺院や各州の民族紹介がされているテーマパーク訪問など、貴重な体験をしました。11月16日(金)に行われた最終報告会では、「コミュニケーションにおける課題と対策」について2チームからそれぞれ発表しました。報告会には、J&M社の庄司社長、井上総務アシスタントマネージャー、ヤンゴン工科大学からはDr. Mi Sandar Mon機械工学学科長他1名の教員が参加されました。両チームからはそれぞれ、各ポジション間でのコミュニケーションの分析と改善提案、文化、言語、技術などを切り口としたコミュニケーションに対する重要性と提案等が行われました。

庄司社長からは、学生の提案に対し、新たな視点もあり、今後検討したいとのコメントも頂戴しました。成長するミャンマーで共に発展する同社にてこの時期に滞在できたことは学生にとって非常に大きな経験となりました。

